自己評価および外部評価結果（1階ユニット）

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ピアーズスローガンを頭に入れ、職員同士声掛けをつねに行っている。	理念として3本の柱を立てており、毎朝、朝礼時に復唱している。また、職員会議の際、理念を具体的に掘り起こし、実践に繋げる努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域に吉備路を伝えるよう、運営推進会議を行い、参加して頂く。	地域との繋がりは十分とは言えないが、地域ケア会議や、地域行事等に積極的に参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	牛神会長さんを通じ、地域の方へ理解して頂けるよう、毎回の運営推進会議に参加してもらう。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月の行事、入居状況、研修会の報告を行い、意見を聞き、次回の会議で報告するようにしている。	2カ月に1回行われており、町内会長や民生委員等が参加している。その際、行事や取り組みについて報告したり、意見や要望等を聞き入れたりして、サービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。	運営推進会議に出席してもらったり、直接窓口に出向いてサービス等の相談をしながら、市町村との協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を作り、月1回身体拘束についての話し合いを行っている。	身体拘束委員会を設置し、事例を基に月1回話し合っている。職員一丸となって身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	7月より身体拘束委員会に含め、高齢者虐待防止について、月1回話し合いをしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての説明、研修は行っていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、契約についての説明を行い、変更時はその都度報告を行う。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	居室担当を作り、顔なじみの話しやすい関係づくりを行う。	家族来訪時、気軽に意見や要望を伺える様、コミュニケーションを密に取っている。また、来訪しやすい雰囲気作りに取り組んでいる。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月１回ユニット会議を行い、意見交換し、統一したケアが行えるようにしている。	月1回のユニット会議において、スタッフの意見や要望等を聞き出している。スタッフが積極的に意見を言える環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	8時間の方は1時間の休憩を交代で取る。 年2回の自己評価を行い、ホーム長、管理者と面接をしていく。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時、新人研修会を行い、研修案内があれば、職員への声掛けをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月１回小地域ケア会議に参加、他職種交流会に参加。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の様子を知る為、らしさシートを記入し、詳しく知ることで、対応の仕方を考え、関係作りをしていく。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、本人の不安もある為、不穏であれば家族に相談が出来るように声かけを行い、要望を聞く。困っていることは面接時、入居後にも話せるよう、声かけをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	環境の変化により、寝付けないなど、精神面での不穏もある為、ケアプランにのせ対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	不安、悲しみ、喜び、すべてを話し合える信頼関係を作れるよう、日々コミュニケーションを図る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	誕生日会、行事などの参加をしてもらうことで、本人との絆を深め、職員の声かけにより、関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	兄弟、友人などの面会をして頂くことで、関係を切らないようにしている。	日常的にご家族や友人が来訪しやすい環境を作ると共に、帰宅願望が強い利用者さんには、スタッフと一緒に自宅に戻り、納得してホームへ戻って来てもらう等、馴染みの場（人）との繋がりを深く受けとめ、継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲が良い方、話が合う方など、食事の席を決める事で孤立しないようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい場所で生活するために、介護情報提供書を渡すことで連携をとる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々、コミュニケーションを図ることで、希望、意向を把握する。	日頃からご家族とコミュニケーションを密に取ると共に、利用者さんにもケアサービス（お風呂やトイレ介助等）の中で、思いや意向を伺いながら把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時、本人の生活歴を知る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の面接で、家族などから状態を聞き、確認把握する。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を作り、アセスメントなど全スタッフでモニタリング、カンファレンスを行っている。	チーム一丸となって、より良い介護に向けてモニタリングしながらアイデアを出し合い、利用者に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、プランにそってケアを行い、記録に残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身体、精神状態に応じて対応。食事であれば肉や魚をやわらかく煮たもの、豆腐など変更している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小地域ケア会議に参加することで、地域の行事ごとに参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間ごとに受診。変更、変化あれば、その都度報告。	2週間に1回、かかりつけ医の往診がある。また、歯科往診もあり、安心して医療が受けれる体制が整えられている。緊急時においては、昼夜間に限らず、速やかな医療連携（体制）が取れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	あしもりクリニックと連携をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護情報を渡し、退院時は入院時情報を頂く。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師・家族・職員が話し合える場を作り、方針に基づき全スタッフで対応している。	ご家族の希望に添えられる様、看取りの指針を作成し、体制を整えている。また、日頃からスタッフ間で看取りについて勉強し、共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故時のマニュアルを作り、日々把握出来るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼・夜と想定し避難訓練を行う。	年2回、昼夜を想定した避難訓練が行われており、安全に避難できる体制が整えられている。地域の参加・協力においては今後の課題である。	地域を巻き込んだ訓練を行うことで、より一層安全に避難できる体制が整えられると思います。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士気をつけ、傷つけないような声かけ、対応を行っている。	施設内で接遇研修を行っている。利用者さんのプライバシーを損なわないサービスを心掛けており、日々のケアに重点をおき、尊重しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう二択にし、選んで決める事が出来る声かけをする。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけをすることで、やりたいことを訴えることもあり、訴えられない方が増えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性はひげを剃る。女性は化粧が出来るよう道具を揃えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼出来にくい方には、やわらかいものにする。片付けの食器洗いは入居者の無理のないよう数を少なくし洗ってもらう。	献立は栄養士が作成している。できるだけ作る喜びや調理の楽しみを味わって頂くために、施設内の菜園で採れた作物を収穫し、おかずに取り入れたり、調理の下ごしらえ等を手伝って貰ったりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすいもの、好みなどに合わせ対応、水分量のチェックを行う場合などあり。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週間ごと歯科往診あり。相談報告、指導を受けている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、尿意があればトイレに行き、排泄が出来るよう声かけしている。	排泄チャック表を利用して、自立に向けた排泄支援に取り組んでいる。また、できるだけトイレでの排泄に重点をおいた介助に努めている。その結果、入居当時よりも排泄の失敗が減少している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり取る。便秘の状況を把握、慢性の便秘の場合、先生にそうだん。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回となっているが、希望があれば入浴してい頂く。	入浴を拒否する入に対しても、最低週2回の入浴を心掛けている。入浴剤や声かけで工夫をこらしながら、楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も休息出来るよう、居室への誘導、声かけを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳、薬服薬ファイルを作り、症状の変化、薬の変更があれば申し送り、どの職員も把握する。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花、洗濯物たたみ、干し、配膳など出来る事は行い、喜びを感じてもらう。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を把握し、家族に伝え、協力を頂き外出などを行う。	各ユニットごとに、花見に出かけたり、家族参加のもと、お芝居鑑賞に出かけたりするなど、積極的に表出の支援が提供されている。また、買い物などは日常的に行われている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理は職員が行い、買い物時は付き添うなど、何らかの対応が必要。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で、家族へ電話をかけることあり。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感、季節感を出すように、季節のポスターを貼るなど対応。	花を飾ったり、季節感が味わえるような飾り付けをする事で、ゆったりと過ごせる空間になっている。また、空調管理により、快適温度・湿度が保たれており、利用者が気軽に集う場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	おやつ、食事の席を決めているが、話しをする時は場所を変える等、対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた箪笥、TVなど思い出のものを持ってきて使用してもらう。	入居時、出来るだけ昔使っていた家具や調度品を持参してもらう様にしている。また、自宅と同じように過ごせるよう、家具等の配置に工夫を凝らしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝いをして頂くことで、役割、生きがいを感じてもらう。		